

第3部

計画の基本目標

1 基本となる考え方

本計画の最終的な目標は、持続的発展が可能な社会の実現のために、次の「基本となる考え方（日進市環境まちづくり基本条例第3条及び第4条）」を具現化することです。

- 1 環境まちづくりは、良好な環境の恵みを楽しむ権利とともに、これを将来の世代に引き継ぐ義務が果たされることを目的として行わなければなりません。
- 2 環境まちづくりは、地域の歴史、風土、文化などを生かし育むとともに、多様な生物が生息できる良好な大気、水、土壌といった豊かな自然環境が、広域的なつながりの中で保全され、人と自然との共生が実現されるよう行わなければなりません。
- 3 環境まちづくりは、人類共通の課題である地球環境の保全に向けて、環境への負荷の少ない循環型社会を築き上げることを目的として行わなければなりません。
- 4 すべての事業活動、日常生活と市の施策は、環境を優先して行われなければなりません。
- 5 環境まちづくりは、人々の能力と持ち味を最大限に活かし、参加と対話を通じて行わなければなりません。

2 計画のキャッチフレーズ

『2024年のこどもたちへ』

この「2024年のこどもたちへ」というキャッチフレーズは、豊かな環境は未来の世代からの預かりものであり、この計画の目標年次である2024年のまだ見ぬ子どもたちへの現世代の私たちの決意表明です。それは、今から行動し、私たちが描いた未来の日進のビジョンを実現し、2024年のこどもたちへ継承するというメッセージです。

このキャッチフレーズは、本計画の策定主体である「にっしん市民環境ネット」と「環境まちづくり研究会」の合同による全体会にて提案され、決定されたものです。

「豊かな環境の未来世代への継承」という考え方として、アメリカの先住民族の言葉で、次のようなものがあります。

私たちの生き方では、政治の決め事は、いつも七世代先の人々のことを念頭におきながら行われる。

これからやってくる人々、まだ生まれていない世代の人々が、私たちよりも悪い世界で暮らしたりすることのないように、できればもっと良い世界に生まれてこられるように心を配るのが、私たちの仕事なのだ。

私たちが母なる大地の上を歩くときに、いつも慎重に一步一步進むのは、これから生まれてくる世代の人々が、地面の下から私たちのことを見上げているからだ。

私たちはそのことを、片時たりとも忘れない

オレン・ライオンズ（オノンダーガ族）

出典：「ネイティブ・アメリカン 叡智の守りびと」 築地書館

7世代先とはいませんが、まだ生まれていない「2024年のこどもたちへ」という言葉には、この一族の願いに重なるものと考えます。

なお、このキャッチフレーズは、将来の子どもたちだけが良ければよいという意味ではなく、2024年の子どもたちのことを考えることが、今の自分たちの行動や幸福（よりよい環境に暮らすこと）につながることを表しています。

例えば、あなたがこのまちを離れて、20年後に戻ってきたとしよう。
その時、このまちはどう変わっているのか。あるいは何が変わっていないのか。
——20年後のこのまちは……。

あなたの姿を映す、清らかな川の流れるはあのだろうか。
あなたの目に、里山の緑は燃えているだろうか。
ためらわずに深呼吸できる、うまい空気はあるだろうか。
個性あるまちなみが、そこにはあのだろうか。
地球にやさしい生き方について、自ら考え行う人々はあるだろうか。
顔の見えるまちが、あなたを受け入れてくれるだろうか。
遊び、学び、耕し、味わう。そんな生き方がまちにはあのだろうか。

たくさんの市民が共に描いた物語がある。
それは、絵空事かも知れない。夢物語かも知れない。
しかし、あるべき生き方を知らずして、人は豊かに生きてはいけない。
あるべき姿を持たずして、まちは健やかに育ってはいかない。
20年後のこどもたちが、胸を張って「好きだ」と言える。
そんなまちにするための、道標がそこにはある。

2024年のこどもたちに捧げる『環境基本計画』が今ここに。
環境まちづくりが今、ここから始まる……。

平成15年度「日進環境早春催事」（イベント）時の
環境まちづくり発表会からの抜粋